

## 概要

- 青森県産ブランド米「青天の霹靂」は、栽培のポイントが浸透しつつあるが、出荷基準を達成できなかった作付者や新規作付者に対して重点指導により、品質の底上げを図る必要があった。また、令和5年産から本格作付となった新品種「はれわたり」は、作付者に対して栽培の要点を指導し、スムーズな普及拡大につなげる必要があった。
- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームを核に、「青天の霹靂」は良食味・安定生産、「はれわたり」は品種特性の普及について、生産指導に取り組んだ。
- その結果、「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率は目標の90%を上回った。また、前年出荷基準未達者はほぼ全員合格となった。一方、「はれわたり」指導拠点ほの高品質・安定生産達成率は、令和5年度の極端な高温の影響により0%となったものの、品種特性が周知されたことから「はれわたり」の作付意欲が醸成され、面積拡大につながった。

## 具体的な成果

### 1 「青天の霹靂」の良食味・安定生産

- 「青天の霹靂」新規作付者の出荷基準達成率（玄米タンパク質含有率6.4%以下）  
目標 90% → 令和5年産 100%（9名/9名）
- 「青天の霹靂」前年産出荷基準未達者の合格率  
目標 100% → 令和5年産 95%（19名/20名）



プロジェクトチームによる現地巡回

### 2 「はれわたり」の高品質・安定生産の普及拡大

- 「はれわたり」指導拠点ほの高品質・安定生産達成率（一等米及び単収600kg/10a以上）  
目標 100% → 令和5年産 0%（0名/8名）
- 「はれわたり」の面積拡大  
現状 0ha → 令和5年産 約400ha（プロジェクトチーム員からの聞き取り）

## 普及指導員の活動

令和4～5年度

- 生産技術普及拠点ほの設置  
令和4年度：「青天の霹靂」9か所、「はれわたり」9か所  
令和5年度：「青天の霹靂」9か所、「はれわたり」8か所
- 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産出荷基準未達者への個別指導の実施  
ブランド米生産支援システム「青天ナビ」活用により、各集荷団体の指導員と連携しながら適正施肥、追肥時期及び追肥量を指導した。
- 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームの活動  
夏期に指導拠点ほを巡回し、適期刈取の指導に向けて関係者の意識を統一した。また、冬期に気候変動に対応した栽培管理等について情報共有、検討し、高温対策の指導内容について意識を統一した。
- 栽培講習会の実施  
適切な種子予措、生育診断に基づいた適期追肥、適期刈取の徹底及び夏の高温対策について指導した。  
令和4年度：「青天の霹靂」25回、「はれわたり」13回  
令和5年度：「青天の霹靂」26回、「はれわたり」92回

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 先進農業者、農業協同組合、研究機関、県行政の関係者の意識を統一し、新品種の高品質・安定生産に向けた産地全体の取組を進めることができた。
- ・ 試験研究機関が開発したブランド米生産支援システムを活用して各ほ場の状況を効果的に示すことにより、効率的に個別指導することができた。

青森県

## 品種特性を発揮する「青天の霹靂」及び 「はれわたり」の高品質・安定生産

活動期間：令和4年度～令和5年度

### 1. 取組の背景

青森県産ブランド米「青天の霹靂」は、既存の作付者には品種特性や栽培のポイントが浸透しつつあるが、栽培管理の不徹底等により「青天の霹靂」の出荷基準である玄米タンパク質含有率6.4%以下を達成できない作付者が毎年見られている。

一方、新品種「はれわたり」は、令和5年産の本格デビューを見据え、一斉導入を検討している地域も見られる。しかし、地域の水稻生産者は、収量や品質面で導入に不安を感じているため、指導拠点ほの収量・品質を確保し、指導拠点ほを活用しながら品種特性を周知することで、不安を解消し、スムーズな普及拡大に繋げる必要がある。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 生産技術普及拠点ほの設置

県農産園芸課が実施する「デジタル技術活用によるあおもり米競争力強化事業（令和4、5年度）」「あおもり米新品種スタートダッシュ事業（令和4年度）」「「はれわたり」デビューを契機としたあおもり米ブランド力対策事業（令和5年度）」や県民局独自の活動により、生産技術普及拠点ほを設置し、担当農家に対して、種子予措や栄養診断に基づく適正追肥・適期刈取等、品種特性に応じた栽培管理を指導した。

令和4年度は「青天の霹靂」、「はれわたり」とともに9か所、令和5年度は「青天の霹靂」9か所、「はれわたり」8か所設置した。

#### (2) 「青天の霹靂」新規作付者及び前年産出荷基準未達者への個別指導の実施

栽培マニュアルやブランド米生産支援システム「青天ナビ」の活用により、集荷団体の指導者と連携しながら、出荷基準の確認、適正施肥、追肥時期及び追肥量を個別に指導した。

令和4年度は新規作付者37名と出荷基準未達者3名に対し、令和5年度は新規作付者9名と前年出荷基準未達者20名のうち前年大雨被害による未達者4名を除く16名に対して個別指導を行った。

#### (3) 西北地域「青天の霹靂」・「はれわたり」生産指導プロジェクトチームの活動

プロジェクトチーム活動は、令和4年度、令和5年度ともに、県合同3回、西北地域独自2回の計5回実施した。

県合同の活動では、出荷基準の再確認や栽培管理、生育状況について情報共有が図られた。

西北地域独自の活動では、夏期に管内拠点ほを巡回し生育状況を確認しな

がら、適期刈取の指導に向けて関係者の意識を統一した。また、冬期に青天ナビを活用しながら本年度の作柄を取りまとめ、関係者と気候変動に対応した栽培管理等について情報共有・検討し、高温対策の指導内容について意識を統一した。



プロジェクトチームによる現地巡回



指導拠点ほでの個別指導

#### (4) 栽培講習会の実施

指導拠点ほ等を活用しながら、追肥講習会、適期刈取講習会、冬期研修会を開催した。

追肥講習会では生育診断に基づいた適期追肥、刈取講習会において適期収穫の徹底、冬季講習会では種子予措の徹底や気候変動に対応した栽培管理など、次年度の良食味・安定生産に向けた指導を行った。（令和4年度「青天の霹靂」25回、延べ353名、「はれわたり」13回、延べ146名、令和5年度「青天の霹靂」26回、延べ431名、「はれわたり」92回、延べ1,497名）

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 「青天の霹靂」の良食味・安定生産

「青天の霹靂」新規作付者及び前年産出荷基準未達者への個別指導を実施した結果、令和5年度の新規作付者9名全員と前年出荷基準未達者20名のうち19名が出荷基準を達成し、品質を底上げすることができた。

#### (2) 「はれたわり」の高品質・安定生産の普及拡大

「はれわたり」指導拠点ほ担当農家に対して、品種特性に応じた栽培管理を指導した結果、令和5年度は、8か所のうち6か所で目標収量を達成したが、出穂後の高温の影響により未熟粒の発生が多く、全ての地点で落等した。しかしながら、指導拠点ほを活用した講習会により、生産者に品種特性が周知されたことから「はれわたり」の作付意欲が醸成され、令和5年度の作付面積は約400ヘクタール（プロジェクトチーム員聞き取りによる）に拡大した。

### 4. 農家等からの評価・コメント（五所川原市K氏、M氏）

指導拠点ほを活用した栽培指導が良食味・高品質米生産に及ぼした影響は大きいと考えている。実際に、令和5年産は極端な高温となり玄米品質に不安を感じたが、指導拠点ほの調査データに基づく適期刈取の指導により、1

等米に格付けされ品質を確保することができた。

ブランド米生産支援システム「青天ナビ」の機能が年々更新され、データを活用した農業が導入しやすい環境となっていることが評価できる。今後も県の支援を期待する。

## 5. 普及指導員のコメント（西北地域農林水産部・主幹・小野泰一）

青森県産ブランド米「青天の霹靂」はデビュー当初から厳格な出荷基準を設け、それを厳守することで、消費者に良食味・高品質ブランド米として広く認知されてきた。このブランドを維持するためには、既存の取組を継続するだけではなく、データを活用した新たな取組を取り入れる必要がある。

青森県産新品種「はれわたり」は、米の産地間競争がこれまで以上に厳しさを増す中、生産者や関係者の期待が高まっていることから、関係者一丸となって、消費者から選ばれる品種に育てあげていきたい。

## 6. 現状・今後の展開等

「青天の霹靂」は今後も新規作付者が見込まれることから、ブランド維持のために、関係機関と連携しながら重点的に指導する必要がある。

また、「はれわたり」は作付者が増加することから品質がブレることなく、良食味米として消費者から評価されるように、関係機関と連携して重点指導を継続していく。